ISSN 1880-0394

Annual Bulletin Report 2023

東海大学文明研究所所報 2023

巻頭言

文明と文化の衝突

馬場 弘臣
教育開発研究センター教授

Civilization を「文明」、Culture を「文化」と翻訳したのは、明治政府が日本の近代化を進める過程においてであったという。文明も文化も翻訳のための造語ではなく、いずれももとは日本にあった年号の一つであった。文明 (1469 ～ 87) は、戦国時代の始まりが応仁・文明の乱からともいわれるように、大きな転換期を迎えた時代の年号であった。また、文化 (1804 ～ 18) は文化・文政文化という、江戸を中心として庶民の文化が花開いた江戸時代後期の年号である。当初は「文華」という文字が使われたが、後に文化になったともいう。どちらも年号の出典は「易経」で、文明が「文明以て健なり、中正にして応ず。君子の正なり」、文化が「文明にして以て止まるは、人文なり。天文を観て、以て時変を察す。人文を観て、以て天下を化成す」からきているという。年号では文化が造語であるのに対し、文明はそもそも、それ自体が語としてすでに成立していたようである。唐の時代、684 年 2 月 27 日から 684 年 10 月 18 日までという短い時期ではあったが、文明という年号があったというが、いずれにしても「易経」でいう文明とはどういった意味なのだろうか。

とくに語源を述べたかったわけでなく、興味は尽きないものの、今はその回答を得ない。それにしても文明といい、文化という、それぞれの意味について調べてみると、それこそ山のように定義づけがなされていることがわかる。文献をまとめてみるだけでも一つの研究になりそうであるが、例えばアメリカの政治学者サミュエル・P・ハンティントンが『文明の衝突』を出版したのが 1996 年のことで、ハンティントンは世界を西欧、中国、日本、イスラム、ヒンドゥー、スラブ、ラテンアメリカ、アフリカの八つの文明圏に分け、冷戦が終結した後は、イデオロギーよりも文明という視点から対立や紛争が起こると主張した。そのハンティントンは、文明を文化のまとまりとして捉え、文明は人間の行動を方向づける最大限のアイデンティティであり、包括的で普遍的な概念であるとするのに対し、文化は文明の一部であり、個別的なアイデンティティであって、人間の行動を表現する特殊的で相対的な概念であるという。近年話題になったイスラエルの歴史学者ユヴァル・ノア・ハラリの著書『サピエンス全史』(2011 年) なども、基本的にはそうした視点を共有しているようであるが、もう少し具体的に、文明は人間の生活を豊かにするための物質的な発達を示し 文化は文明の一部として、人間の心を豊かにするための精神的な所産であるとする。それらが西洋社会に共通した認識ではないだろうか。

いずれにしても、批判を恐れずにいうならば、文明はとくに科学や技術の発達度を示すがために、より進んだもの、発達したものに価値が与えられ、文化は精神の所産であるがゆえに、それぞれの時代や地域における遺物・遺産つまりより古いものに価値が与えられるとはいえないだろうか。確かに科学や技術は一直線に絶え間なく必ず進歩するが、それが果たして人びとに真に幸せをもたらすものであるのか。進歩史観への大きな疑問として、それが 20 世紀の終わりころから我々に突きつけられた根本的な問いなのではないだろうか。昨年から話題になった ChatGPT に代表される生成系 AI の技術的進歩は、ある意味恐るべき脅威として世界を変えていくであろう。20 世紀最大の発明がコンピューターで、これにインターネット技術が加わることで第三次産業革命が起こり、さらに AI(人工知能) とロボットの発達が第四次産業革命を進めるともいわれている。自動運転で車が走り、物流は人の手を介さず流れ、人類はエレベータで宇宙に行く。そんな未来も現実のものとなろうとしている。

転じて文化的な遺物や遺産については、地方における博物館や美術館の閉鎖を耳にするたびに危機的な状況を痛感せざるを得ない。文化が特殊個別的なもので、地域や風土、社会に規定されるものだとしたら、それ自体が精神的な所産の崩壊を示すものではないだろうか。文化財保護法の改正によって文化財が保護するだけでなく、活用することが条文化されてからは、お金にならない文化は価値がないことのようにも思われてくる。そしてすでに絵画や音楽といった芸術作品ですら AI に代替されてきている時代である。そうした中で果たして人間という、人類という存在はどうなっていくのであろうか。文明と文化は新たな時代の中で衝突を始めているのではないか。アニメ鉄腕アトムを生で観ていた世代としては、手塚治虫がさまざまな漫画で描き、訴えようとした未来への警鐘が、まさに大きく響こうとしているように思われるのである。

つらつらとそんなことを考えるがゆえに、文明研究所という一研究機関がこれから果たすべき役割は、さらに大きくなるのではないかと強く思う次第である。

文明研究所の研究プログラム

文明研究所は、本学の創設者松前重義博士の意思を受け継ぎ、学内の幅広い分野からの研究者を結集して、過去の文明、現代文明が抱える諸問題、将来の文明のあり方について総合的に研究する機関です。

当研究所の発足は 1959 年に遡ります。研究所規則第 2 条に、「研究所は人類文明という包括的事実を、人文、社会、自然諸科学の協力によって探究し、文明学という新しい学問的理想を完成発展させることを目的とする」と記されている通り、遠大な構想のもとに設立されました。

世紀が変わって 2001 年には現在の文明研究所に近い形態となり、これ以降「21 世紀文明の創出」という研究テーマのもと、2013 年度まで、おおよそ 3 年を 1 期とする研究プロジェクトを策定し、研究を推進してきました。第 1 期（2001 年度～ 2004 年度）は「現代文明の展開と社会文化的多様性」、第 2 期 (2005 年度～ 2007 年度) は「グローバリゼーションと生活世界の変容に関する総合的研究」、第 3 期 (2008 年度～ 2010 年度) は「対話と共生を理念とする新しい社会の構築」、第 4 期（2011 年度～ 2013 年度）は「創造すべき 21 世紀文明」でした。2014 年度からは、本学の第 II 期の中期目標（2014 年度～ 2017 年度）を受けて、「文明とグローバリゼーション」をテーマとして掲げ、共同研究を進めました。

2016 年 4 月には、総合社会科学研究所の設置にともない、人文学を中心として本研究所の研究活動を再編し、進めていくことになりました。「人文学の活性化」と「本学所蔵の文明遺産の活用」を 2 つの柱として、共同研究を推進しています。前者はこの間、「超領域人文学構築に向けた基礎研究」と「20 世紀人文学の方法論的再検討」の 2 つのコアプロジェクトを実施してきましたが、2023 年度からは両者を統合して名称を刷新し、コア・プロジェクト「現代の要請に応える人文科学方法論の探究」として研究活動を展開しています。後者では、コア・プロジェクト「東海大学所蔵文化財の活用のための基盤整備」において、本学が所蔵する「アンデス先史文明に関する遺物」（アンデス・コレクション）と「古代エジプト及び中近東コレクション」（AENET）の保管・整理を行うとともに、本学のマイクロ・ナノ研究開発センターとの連携研究や、展示会の開催などを行っています。

2023 年度は、コア・プロジェクトと個別プロジェクトを以下の通り推進しました。進捗状況については本誌の報告概要をご覧ください。

- コア・プロジェクト①「現代の要請に応える人文科学方法論の探究」（代表：田中彰吾）
- コア・プロジェクト②「東海大学所蔵文化財の活用のための基盤整備」（代表：山花京子）
- 個別プロジェクト①「美人画に関する基礎的研究」（代表：篠原聰）
- 個別プロジェクト②「近現代芸能文化史に関する研究」（代表：馬場弘臣）

2023 年度の研究プロジェクト

「現代の要請に応える人文科学方法論の探究」（コア・プロジェクト 1）

本プロジェクトは、本研究所の活動の二本柱の一つである人文学の活性化を担うものであり、今年度から名称を改め「現代の要請に応える人文科学方法論の探究」とし、新たに研究活動をスタートした。この名称は、近年アカデミアの内外で人文科学（および文系全般）に向けられる厳しい論調に対して、人文科学の側から現代社会の要請に応答する新たな研究知見とその方法を提示することを意図したものである。プロジェクト内に異なるテーマを掲げる 3 つの班を設け、以下の通り活動を展開した。

「人新世（Anthropocene）における人文知」班

平野葉一・田中彰吾・吉田晃章
平木隆之・服部泰・李昭知・安達未菜

本研究班では「人新世（Anthropocene）における人文知」をテーマに掲げて研究活動を展開してきたが、具体的には以下の 2 点から研究を進めた。

- Part 1「超領域人文学をふまえた総合知の研究」今日の人文知の問題を人間営為との相関から複合的に捉える研究
- Part 2「環境と QOL の研究」昨今の環境問題に対し、人々が自らの生を満足しながらその対策に向かえる社会の在り方についての研究

2023 年度は、研究班メンバーでの研究会を継続して開催しながら（計 5 回）上の 2 つのテーマの検討を行った。《Part 1》では科研費研究（平野が分担者）も含めて、広範な領域からの研究について学会報告等を行った。《Part 2》では、とくに 2023 年 8 月に開催された国際会議 ICICIC2023 において「Environment and QOL」セッションを開催し、研究報告を行った。これらの研究については、最終的には学会誌、文明研究所の和文誌（『文明』）、欧文誌（『Civilizations』）に論文を掲載するに至った。なお、今年度は研究会メンバーから 1 名が論文博士号取得（東海大学文学研究科）に至り、2 名の大学院生が国際会議での研究報告、ポスター発表に参加し、また、研究成果を論文として発表した。

今年度の研究成果は以下のとおりである。

【学会活動】

［1］ 国際会議 ICICI2023(17th International Conference on Innovative Computing, Information and Control)（2023 年 8 月 30 日、熊本）、口頭発表4件

Yoichi Hirano, Takuo Nakashima and Mina Adachi: A Future Perspective on the Relation between Environment and Quality of Life – Based on the Research Reported in Previous Sessions –

Soji Lee: Analysis of Co-Creative Activities for Sustainable Tourism

Masamitsu Futaesaku: A Case Study on Pretty Cure's Portrayal of the Quality of Life during COVID-19

Manasisha Pengsom and Yoichi Hirano: Diffusion of Manga and Anime from a Viewpoint of Convergence-Culture – Comparative Study between Thailand and Japan –

［2］ 国際会議 The 19th Asian Agricultural Symposium, 2023（アジア農業シンポジウム）（2023 年 12 月 2 日、東海大学熊本臨空キャンパス）、ポスター発表

Yoichi Hirano, Takuo Nakashima, Mitsutoshi Yahara, Toru Hattori, Mina Adachi, Hota Moriya: "Conceptual and ideological study on society's environmental awareness regarding water resources"

［3］シンポジウム「古代およびルネサンスからニュートンに至る流れを考える」（第 79 回日本科学史学会年会（2023 年 5 月 28 日、西早稲田キャンパス）、シンポジウムパネラー

平野葉一：「レオナルド・ダ・ヴィンチの自然観―総合知と科学知の間で―」（科研費研究）

【論文等】

中村朋子、「ルネサンス数学の「文明性」―学問の影響可能性に関する一試論―」、『比較文明』、比較文明学会、第 39 号、2023 年、pp.104-130.

平野葉一・原基晶・丸山雄生・安達未菜、「「知のフロンティア」シンポジウム―「文化知

と学問」、『文明』、東海大学文明研究所、No.31、2023 年、pp.63-87.

安達未菜、「祭りの聖と俗――ミストラル生誕祭」、『文明』、東海大学文明研究所、No.31、2023 年、pp.52-62.

マナシシャー・ペグサム、「自治体における「災害復興、町おこし」政策としてのマンガ・アニメの活用」、『文明』、東海大学文明研究所、No.31、2023 年、pp.88-100.

【欧文誌】Civilizations, No. 32 (2023)（刊行準備中）

Yoichi Hirano, Takuo Nakashima, Mitsutoshi Yahara, Toru Hattori, Mina Adachi, Hota Moriya: Conceptual and ideological study on society's environmental awareness regarding water resources

Soji Lee: School of International Cultural Relations, Tokai University, Japan

Sei Wanatabe: A Consideration of the Validity of Trans-disciplinary Humanities: Burckhardt's Historical Study as a clue

Toru Hattori: The Formation of Local Identity through the Concept of Habitus —A Case Study of the Niwaka Matsuri, as a traditional festival

Hota Moriya: A study on acceptance of Social Capital in Japan

Mina Adachi, A Study on the concept of ethnicity in Provence and Catalonia in the 19th century

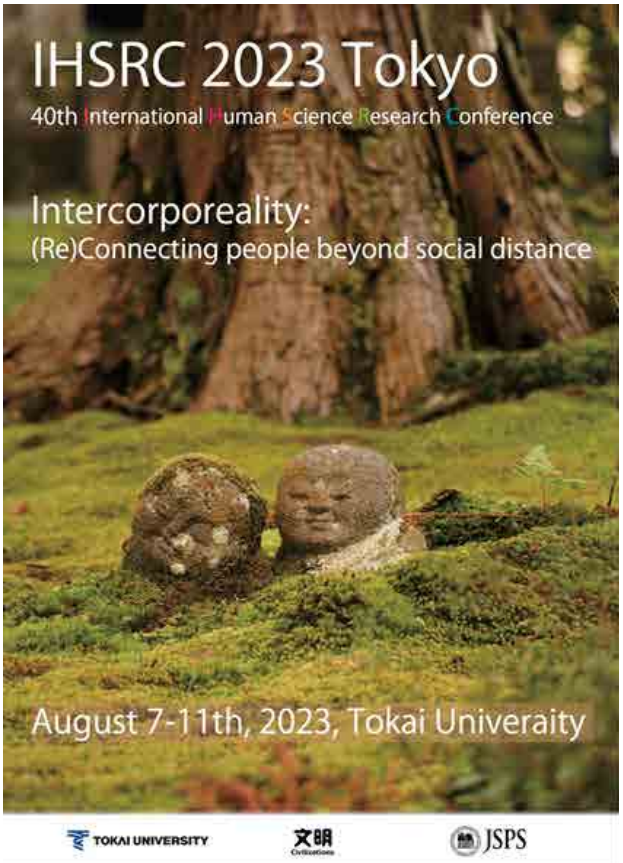
Yoichi Hirano: A study on practicality in the historical development of mathematics

「身体性を起点とする新たな学際人文学」班

田中彰吾・北條芳隆
安達未菜・白川美冬

昨年度始まった認知進化を主題とする個別プロジェクトを発展的に解消し、今年度から身体性認知科学を中心とする学際人文学の方法論を探索するコア・プロジェクトの 1 班として再編した。最大の成果は、「第 40 回人間科学研究国際会議」を本学の湘南キャンパスで 8 月に開催し、本研究所主催で国際的な研究上の連携を推進したことにある。会議は「間身体性（intercorporeality）」をテーマとして、パンデミック期間の社会的距離を超えて人々が出会い直すことの意義を問うものとなった。このほか、書籍の出版を含め主な成果は以下の通りである。

【国際会議開催】40th International Human Science Research Conference（第 40 回人間科学研究国際会議，IHSRC 2023 Tokyo）、2023 年 8 月 7 日～ 11 日、東海大学湘南キャンパスにて開催した。心理学・教育学・看護学・社会福祉・哲学等の分野から全 112 名（11 カ国の学術機関）の参加があった。



【学術書】

1）河野哲也・田中彰吾共著『アフォーダンス――そのルーツと最前線』東京大学出版会、2023 年 8 月

2）田中彰吾編著，今泉修・金山範明・弘光健太郎・浅井智久著『自己の科学は可能か――心身脳問題として考える』新曜社、2023 年 12 月

「戦争の人間学的研究」班

山本和重・篠原聰・小林元裕
川﨑亜紀子・三輪太郎・吉井大門

2022 年 2 月に、ソ連の侵攻によって勃発したウクライナ戦争は、「戦争」が 21 世紀においても、人間にとって依然としてリアルな事象であることをまざまざと示した。「人文学の活性化」を研究の柱の一つとする文明研究所として、「戦争」を人文学の見地から多角的に検討する共同研究として、2023 年度から「戦争の人間学的研究」班を設けた。本共同研究では、戦争というものを人びとがどのように表象してきたのか、とりわけ排外主義、国家主義あるいは戦争反対のステレオタイプな表象が噴出するなかにあって、それとは異質な表象が屹立する場面に着目する。第 1 回の研究会は、下記の内容で開催した。年度内に第 2 回を開催の予定である。

第 1 回研究会
（2024 年 1 月 27 日、15:20 ～ 17:40）
山本和重「アナキスト詩人秋山清の「まなざし」から「戦争と民衆（人間）」を考える」

「東海大学所蔵文化財の活用のための基盤整備」（コア・プロジェクト 2）

山花京子・吉田晃章・篠原聰

本プロジェクトは 11 号館に収蔵されている古代エジプト及び中近東コレクション（AENET）（以下、エジプト・コレクションとする）と 5 号館 1 階に収蔵されているアンデス・コレクションの活用に関わる環境整備と保全を主たる目的とする。さらに、これらのコレクションを軸に教育普及活動、研究会や講演、シンポジウム等を展開している。
以下では 1). アンデス・コレクションと 2). エジプト・コレクションについてそれぞれの成果を記す。

1）．アンデス・コレクション

＊ 2023 年度新学術領域研究「出ユーラシアの統合的人類史学：文明創出メカニズムの解明」A02 班　心・身体・社会をつなぐアート公募研究「笛吹ボトルの構造研究と音響解析から探る古代アンデスの水に関わる世界観」（代表者：吉田晃章、課題番号：２２Ｈ０４４５３）（継続：2023 年度まで）

＊科研プロジェクト代表吉田晃章が、研究協力者の放送大学鶴見英成准教授・岡山県立大学真世土マウ准教授、BIZEN 中南米美術館森下矢須之館長、マイクロ・ナノ研究開発センター喜多理王所長、イメージング研究センター粟野若枝氏、喜多研大学院生（石山泰成氏・渡邉廉氏・加賀美祐介氏）とともに笛吹きボトルを対象に、音響の解析を実施した。

＊ 2023 年度スチューデントアチーブメントセンターが運営する授業「現代教養講義」の授業を一部担当し、笛吹きボトルに関する最新研究を講義した（ビデオ映像、2024 年度講義でも使用予定）。

＊文明研究所協力のもと、2023 年 4 月に「ユニバーサル・ミュージアムーさわる！“触”の大博覧会 岡山巡回展 2023」展に笛吹きボトルのレプリカを出陳。筑波大学附属視覚特別支援学校児童･生徒の作品（笛吹きボトル）を展示した。

＊ 6 月 12 日に岡山県立岡山盲学校で実施された「笛吹きボトルワークショップ」（科研費プロジェクトのアウトリーチ活動）に、アンデス・コレクションを触察資料として提供。計 3 回のワークショップを実施した。

＊ 9 月 13 日から倉敷考古館・BIZEN 中南米美術館とのコラボレーション企画として「音の造形―古代アンデスの笛吹きボトル―」を企画立案し、岡山県の倉敷考古館で開催した（文明研究所・倉敷考古館・BIZEN 中南米美術館主催事業）。先端技術で解明されてきたアンデス・コレクションに関する次の展示を行った。１）真世土准教授らの協力のもと笛吹きボトルと３D プリンターで作成した半裁レプリカを用い研究成果を展示、２）Ｘ線 CT 撮影を用いた吉田による倉敷考古館の笛吹きボトルの真贋裁定結果を公開、３）倉敷盲学校のワークショップで制作した笛吹きボトルの展示を実施した。

＊倉敷考古館の展示との連携企画（BIZEN 中南米美術館・岡山大学文明動態学研究所・新学

術領域研究「出ユーラシアの統合的人類史学」共催）で、「日本における笛吹きボトル研究の最前線」と題したコレクションに関する発表を行った。

＊9月18日、静岡県在住の石川ご夫妻からアンデス文明のチャンカイ文化に属すると思われる土器3点を受贈。これに対し松前義昭学長からの礼状をお渡しした。9月と12月に遺物3点をX線CT撮影し、真贋裁定を実施した。また2024年1月10日には、埼玉大学非常勤講師の浅見恵理氏にお越しいただき、真贋裁定に関する所見をいただいた。

＊吉田の担当する講義科目「文明論の展開（アンデス地域の諸文明）」（秋セメスター）で、受贈品の土器を活用し、資料整理演習を行った。

＊12月3日古代アメリカ学会第28回研究大会（於：京都外国語大学）で「笛吹きボトル土器の音響解析―模型を用いた実験成果の概要―」テーマに研究成果を発表した。

＊2024年3月には、アンデス・コレクションHPの第7回更新で、収蔵品100点をアップロードし、総掲載点数が700点となった。

2）．エジプト・コレクション

＊エジプト・コレクションのHP
http://aenet.civilization.u-tokai.ac.jp/

1）　新たに「鈴木八司：日本のエジプト学のパイオニア」、「クラウドファンディング成果報告書（縮小版）」の固定ページを追加した。

2）　ユーザー分析 (by Google Analytics)(期間 2023年1月23日～ 2024年1月23日)
サイト開設以来2年で昨年からユーザー数が2055件増加し、3849件となる。日本語コンテンツが殆ど（英語非対応）の割には米国・エジプト・英国からなど世界からのアクセスが多い。2023年11月中旬に「コレクション新蔵品」と「出版情報」をアップロードした後、一時的に閲覧数が急増した。

＊ SNSを利用したコレクション情報普及

1) 受験生など若年層にアウトリーチを行うため、アジア学科「アジア研究プロジェクトA」科目の履修学生がAENETコレクションの紹介動画を制作

① 古代エジプト及び中近東コレクションの

コホル容器を紹介する
https://youtu.be/Bi8Qk05APCI

② 古代エジプト及び中近東コレクション イクニュウモン紹介
https://youtu.be/J0oqyK29020

③ 「古代エジプトへタイムスリップ. . . !? ～昔のメイクってどんなの?～」
https://youtu.be/_9hPfQSnps8

④ ハルポクラテス
https://youtu.be/ktMZI9-GWNs

⑤ ビザンツランプを再現して見た
https://youtu.be/unxokdXWmlU
など

2) X（旧Twitter） https://twitter.com/aenet_tokai　開設1年　フォロワー数715
チャレジプロジェクトの学生団体「Egyptian Project」が毎週月・木の5限にAENETコレクションの遺物整理保存と古代エジプト語の勉強会を開催。活動は東海大学Egyptian Project（エジプロ）に随時アップロードしている。
https://twitter.com/Tokai_EgyPro

3) 新蔵品をコレクションに追加
故鈴木八司名誉教授のご遺族より新たに7点の古代エジプト遺物の寄贈を受けた。

＊展覧会・研究会・講演会・WS

1) 松前記念館にて文明研究所主催「受け継がれる祈りの心 - 東海大学所蔵　古代エジプ

トのヒヒ神像とクラウドファンディング」展覧会及び Egyptian Project による学生展示「神への祈り」同時開催（6月3日～2024年1月26日）

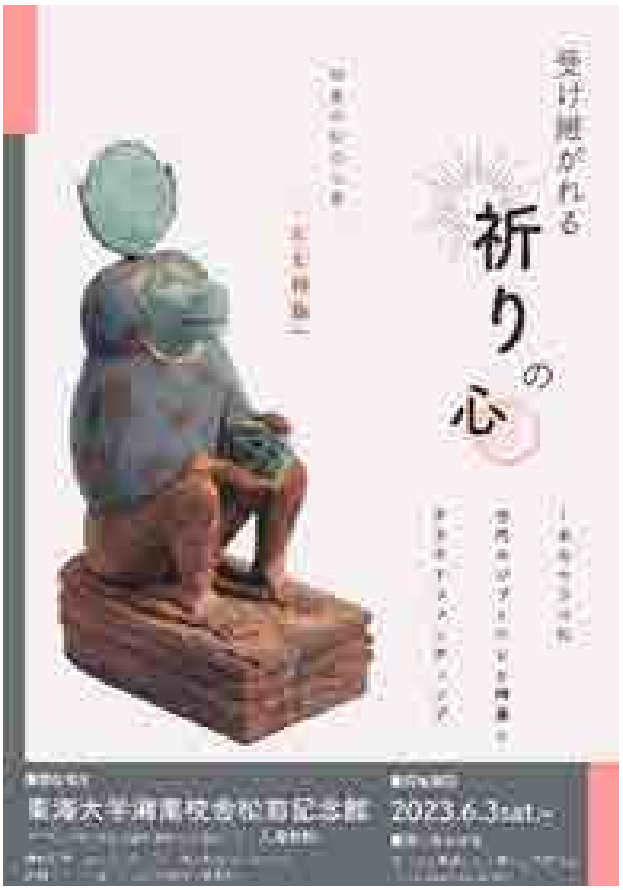
2）角川武蔵野ミュージアム企画展「神秘のミステリー!文明の謎に迫る　古代エジプトの教科書」展（2023年7月23日[日]～2023年11月20日[月]）にて AENET コレクション遺物３７点及び写真資料４点を出陳

3）12月23日　小野智仁氏による「古代エジプト及び中近東コレクションと学生活動の10年間」の講演を開催（SAC　Egyptian Project 主催　文明研究所後援）

＊上記以外の出版・報道

1）NHK 総合 「チコちゃんに叱られる」2023年7月7日放送 『なぜ世界遺産を決めるようになった?』 の資料提供

2）TBS 「世界ふしぎ発見!」 2023年7月8日 「世界遺産　誕生の秘密」への資料及び写真提供



「受け継がれる祈りの心」と Egyptian Project 学生企画「神への祈り」展覧会ポスター

「美人画に関する基礎的研究」（個別プロジェクト①）

篠原聰・山本和重・角田拓朗
今西彩子・田中知佐子・吉井大門

本研究は、「美人画」の確立に大きく寄与した鏑木清方とその弟子たちの画業を浮世絵の受容という観点から考察し、日本近代における「美人画」の諸相を明らかにすること、その過程で従来の「日本画」の成立に関する議論にも新たな研究視角を提供することを目的としている。本年度も角田拓郎氏（神奈川県立歴史博物館主任学芸員）、今西彩子氏（鎌倉市鏑木清方記念美術館学芸員）、吉井大門氏（横浜市歴史博物館学芸員）、田中知佐子氏（大倉集古館学芸員）を研究員に迎え、昨年度に実施したローマ日本美術展覧会に関する継続調査と近現代の日本画に関する作品調査を実施するなど、概ね計画通りにプロジェクトを進めることができた。調査研究の主な活動内容は以下の通りである。①イタリアの現地踏査の成果を東京文化財研究所

主催の研究会にて発表（2023.9）、②現代日本画家の間島秀徳氏の作品調査（2023.10）、③鏑木清方の弟子の尾中廬山の作品・資料調査（2023.11,2024.3）、④活動報告書の刊行など。

本年度も尾中廬山の作品や新出資料が発見されるなど、大きな進展があった。鏑木清方門下の尾中廬山は福岡県遠賀郡芦屋町生まれで、同門の寺島紫明、西田青坡、門井掬水らと交流があり、清方門下の郷土会にも出品していることが知られているが、彼が描いた作品はあまり知られておらず、経歴も不明な点が多かった画家である。今回の調査で、屏風などを含む大作や遺族のもとに残された新出資料が多数発見された。また、本プロジェクトを進めるなかで、美術館学芸員や外部研究者との交流も深めることができた。尚、本年度の調査研究の成果については、次年度、東京文化財研究所発行の『美術研究』に成果の一端を公開する予定である。当該プロジェクトについては、今後も美術館等との連携による調査研究の拡がりが期待できる他、資料の基礎調査については博物館実習生が関与し、実物資料の取り扱い等を体験的に学ぶ絶好の機会ともなるなど、教育的な効果も見込めるため、次年度以降も継続的な調査研究が求められる。

「近現代芸能文化史に関する研究」（個別プロジェクト②）

馬場弘臣・兼平賢治・木村政樹・神谷大介

本年度は，大学院文学研究科大学院生３名と一般人の４名を臨時職員として雇用し、これに文学部歴史学科日本史専攻の４年生３名、２年生１名を加えた計８名で、劇作家・北條秀司関係資料と俳優・緒形拳関係資料の整理作業にあたった。北條秀司関係資料では書簡を中心とした資料の整理作業を、緒形拳関係資料では主に色紙および写真資料の整理を進めた。このうち緒形の写真資料については，「俳優・緒形拳関係資料目録　その２」として『文明』No.32に収録することができた。

北條秀司については、2023 年秋に、北條秀司生誕満 120 年記念展覧会「劇作家・北條秀司の世界―小田原で開花した才能と情熱―」を開催した。展覧会は小田原市内３か所で開催し、あわせて記念のイベントを開いた、展覧会とイベントの詳細は以下の通りである。

- 「劇作家・北條秀司　華麗なる交流の日々」（小田原文学館，10 月 26 日～ 12 月 10 日）
- パネル展示「名作『王将』が生まれた街―劇作家・北條秀司と小田原」（おだわら市民交流センター UMECO，11 月 1 日～ 15 日）
- 回顧展「劇作家・北條秀司と名優・緒形拳―交流の日々―」（旧松本剛吉別邸，11 月 7 日～ 19 日）
- 北條秀司生誕満 120 年記念イベント「劇作家･北條秀司と『王将』」（報徳会館 琥珀の間，2023 年 11 月 12 日）

本イベントでは、馬場が北條秀司の代表作である「王将」誕生の背景と社会的意義について講演を行い、緒形の長男幹太氏とともに緒形家と北條家の関係および北條作品についてトークショーを開催した。また、講談師の神田蘭氏に「王将」第１部を新作講談として上演していただいた。さらに，これらの記念として，図録『劇作家・北條秀司をめぐる人びと―文化人たちの競演―』(野の花出版社，2023 年 10 月) を刊行した。

本年度も文学部歴史学科日本史専攻開講のウィンターセッション科目「史料管理学演習」の受講生（16 名）と臨時職員と共同で、北條秀司関係資料と緒形拳関係資料の整理を進めた。本プロジェクトは本年度が最終年度であり、馬場が定年退職となるため、北條資料の受け入れ先として小田原市立中央図書館と早稲田大学演劇博物館および北條邸と交渉し、緒形資料の受け入れ先としては同じく早稲田大学演劇博物館と緒形邸に分けて保存することとなった。

活動報告

学部教育等との連携

「緒形拳・北條秀司資料と史料管理学演習」

馬場 弘臣

本年度は、文学研究科大学院３名と一般人１名の計４名を臨時職員として雇用し，その他文学部歴史学科日本史専攻４年生３名および２年生１名の８名で、北條秀司関係資料および緒形拳関係資料の整理作業にあたった。今年度は特に，北條資料のうち北條直筆の脚本や随筆原稿、書簡や葉書などの整理を、緒形資料では写真や色紙などの整理にあたった。緒形の写真資料については、昨年の台本、スクラップブックに続いて『文明』No.23 に資料目録を公開することができた。また、北條資料については，2023 年の 10 月から 12 月にかけ，小田原文学館，おだわら市民交流センター UMECO, 旧松本剛吉別邸の小田原市内３か所で展覧会を開催した。これらの展覧会は北條の生誕満 120 年を記念するもので、11 月 12 日には報徳会館で記念のイベントを開いた。これらの展覧会やイベントにはスタッフとして大学院生や学部生も協力した。その意味で本年度は，資料整理から目録作成、さらには展覧会等のイベントによる研究の公開を一貫して行うプログラムとして作業を体験することができたと考えている。

また、文学部歴史学科日本史専攻開講のウィンターセッション科目「史料管理学演習」ついては、今年度は 16 名が履修したことから、日本史専攻の教員とも協力して資料整理の具体的な方法について学んだ（2024 年２月 20 日～24 日）。とくに本年度はリフィルやファイルを使った近現代芸能関係資料整理の最終段階として、個々の資料リフィルに資料番号シールを貼付したり、ファイルに見出しの背ラベルを貼付したりする作業を行った。

史料管理学演習の風景

『文明』第32・33 号（2024年3月発刊）

■内容のご紹介　第 32 号

巻頭言

- 量子モデルと来るべき社会 ― 松前重義の現代文明論
（田中彰吾）

論文

- 1470 年代前半のヴェネツィアのスピラ工房
インキュナブラ装飾の効率化のためのハンコの利用
（松下真紀）
- 1960 年代後半～ 70 年代における演劇界の変容と緒形拳
（岡崎佑也）
- 祭りの聖と俗 ― ミストラル生誕祭
（安達未菜）
- 自治体における「災害復興，町おこし」政策としての
マンガ・アニメの活用
― 「『ONE PIECE』熊本復興プロジェクト」を中心に ―
（マナシシャー・ペグサム）
- 「文化を科学する Ⅲ」ワークショップ
AI とオープンデータが人文学を変えるデジタル・ヒューマニティーズ
― 画像公開方式 IIIF や AI くずし字認識の発展から見えてくる人文学の新たな研究方法 ―
（北本朝展, 山花京子, 松前ひろみ
鴨下真由, 小能治子, 生田目心愛）
- 「知のフロンティア」シンポジウム―「文化知と学問」
（平野葉一, 原基晶, 丸山雄生, 安達未菜）

資料目録

- 俳優・緒形拳関係資料目録 その２
（馬場弘臣）

■内容のご紹介　第 33 号（欧文誌）

- Preface
（Shogo TANAKA）
- Conceptual and ideological study on society's environmental awareness regarding water resources
（Yoichi HIRANO, Takuo NAKASHIMA, Mitsutoshi YAHARA, Toru HATTORI, Mina ADACH, Hota MORIYA）
- Role of Social Capital in Sustaining Tourism Activities
（Soji LEE）
- A study on acceptance of Social Capital in Japan
（Hota MORIYA）
- The Validity of Trans-disciplinary Humanities Based on Burckhardt's Historical Study
（Sei WATANABE）
- Study on the concept of ethnicity in Provence and Catalonia in the 19th century.
（Mina ADACHI）
- Study on practicality in the historical development of mathematics.
（Yoichi HIRANO）

所員の活動

田中　彰吾
文明研究所長、文化社会学部・教授

【執筆】
- 田中彰吾編，田中彰吾・今泉修・金山範明・弘光健太郎・浅井智久著『自己の科学は可能か――心身脳問題として考える』新曜社，2023 年 12 月
- 河野哲也・田中彰吾『アフォーダンス――そのルーツと最前線』東京大学出版会，2023 年 8 月.
- Miyahara, K. & Tanaka, S. (2023). Narrative self-constitution as embodied practice. Philosophical Psychology. https://doi.org/10.1080/09515089.2023.2286281
- 田中彰吾「第 3 回：自己であることと科学すること」新曜社クラルス・連載『自己の科学は可能か』出版記念シンポジウムの現場から，2024 年 1 月．https://clarus.shin-yo-sha.co.jp/posts/7828

【報告・講演】
- 「原子論的人間観から量子メタファーによる人間と社会の理解へ」ワークショップ「開放量子系の数理による生物・認知・社会現象の理解」（理化学研究所）2024 年 1 月 26 日
- 「触覚から身体と心を考える」東海大学 TQC 公開シンポジウム「身体の声に耳を傾けてー学校・博物館におけるユニバーサルな学びの可能性」（東海大学）2023 年 12 月 16 日.
- 「「生きられた身体」による運動学習ー身体図式と身体イメージの違いから考える」日本認知科学会・知覚と行動モデリング（P&P）研究分科会（一橋大学）2023 年 10 月 21 日.
- 「身体のプロジェクションと自己の進化」2023 年度日本認知科学会第 40 回大会 OS-11「自己と身体の相互構築とプロジェクション」（公立はこだて未来大学）2023 年 9 月 8 日.
- 「身体図式から見た認知の能動性」2023 年度日本認知科学会第 40 回大会 OS-9「認知の能動性ーゲシュタルト心理学、環世界、状況依存性…を切り口として」（公立はこだて未来大学）2023 年 9 月 7 日.
- 「対面とオンラインの会話の質的差異から考えるオンライン授業の意義」北海道大学研究集会 2023「ポストコロナ時代の言語教育におけるオンライン授業と翻訳 AI・生成 AI への対応に関する研究」（北海道大学）2023 年 8 月 29 日.
- 「パラスポーツを通じた他者理解と共生社会」日本財団パラスポーツサポートセンター・パラリンピック研究会・第 42 回ワークショップ（日本財団）2023 年 8 月 23 日.
- 「Possibilities for Phenomenological Cognitive Science」Symposium A: Another History of Psychology: From a phenomenological perspective, 40th International Human Science Research Conference（東海大学）2023 年 8 月 8 日.
- 「身体性認知からサピエント・パラドックスを考える」科学基礎論学会 2023 年度総会・特別講演（東海大学）2023 年 6 月 11 日.
- 「「情解」と「知解」をめぐって」2023 年度人工知能学会全国大会 OS-28「知・情・意ー AI が人間研究になるための枠組み」（熊本城ホール）2023 年 6 月 7 日.

【その他】
- JST-CREST マルチセンシング 2023 年度採択課題「Narrative embodiment: neurocognitive mechanisms and its application to VR intervention techniques」（代表者：明治大学理工学部教授・嶋田総太郎）に主たる共同研究者として参加（2023 年 10 月～）
- 40th International Human Science Research Conference（第 40 回人間科学研究国際会議）を東海大学湘南キャンパスで主催（2023 年 8 月 7 日～ 11 日）
- 理化学研究所、客員主管研究員に着任（2023 年 7 月～）

山本　和重
文学部歴史学科日本史専攻・教授

【執筆】
- 「アジア・太平洋戦争期における第二国民兵の召集―「根こそぎ」動員との関連で―」『東海大学紀要文学部』第 114 輯、2024 年 3 月

【講演・報告】
- 講演「青野原村の兵事資料」相模原市立公文書館第 9 回講演会、2023 年 10 月 21 日
- 報告「アナキスト詩人秋山清の「まなざし」から「戦争と民衆（人間）」を考える」文明研究所コアプロジェクト 1・「戦争の人間学的研究」班第 1 回研究会、2024 年 1 月 27 日

【その他】
- アジア太平洋戦争期の相武地域史研究会第 4 回シンポジウム報告書『軍隊・戦争と地域社会―津久井・横浜・小田原―』の編集・発行、2024 年 3 月

馬場　弘臣
教育開発研究センター・教授

【執筆】
- 馬場弘臣「劇作家・北條秀司と小田原」（小田原史談会『小田原史談』第 275 号，2023 年 10 月）
- 馬場弘臣編集･監修, 小田原市立中央図書館･東海大学文明研究所制作『劇作家北條秀司をめぐる人びと―文化人たちの競演―』, 50 頁，野の花出版社，2023 年 10 月
- 馬場弘臣『中井村震災紀念誌　解説』，16 頁，中井町，野の花出版社，2024 年 3 月
- 馬場弘臣「巻頭言　文明と文化の衝突」（『東海大学文明研究所所報 2023』2024 年 3 月）
- 馬場弘臣「俳優・緒形拳関係資料目録　その 2」（東海大学文明研究所『文明』No.32，2024 年 3 月）

【講演・講座】
- 馬場弘臣「北條秀司生誕満 120 年記念講演　劇作家・北條秀司と『王将』」（報徳会館 琥珀の間，2023 年 11 月 12 日）

【その他】
- 北條秀司生誕満 120 年記念展覧会「〔総合タイトル〕劇作家 北條秀司の世界―小田原で開花した才能と情熱―」開催
  - 「劇作家・北條秀司　華麗なる交流の日々」（小田原文学館，10 月 26 日～ 12 月 10 日)
  - パネル展示「名作『王将』が生まれた街―劇作家・北條秀司と小田原」（おだわら市民交流センター UMECO，11 月 1 日～ 15 日)
  - 回顧展「劇作家・北條秀司と名優・緒形拳―交流の日々―」（旧松本剛吉別邸，11 月 7 日～ 19 日)
  - 北條秀司生誕満 120 年記念イベント「劇作家・北條秀司と『王将』」（報徳会館 琥珀の間，2023 年 11 月 12 日）

山花　京子
文化社会学部アジア学科・教授

【執筆・翻訳】
- 山花京子「古代エジプトのファイアンスー白華・浸灰・塗付技法の復元実験から得られた各技法の特徴に関する検討ー」、『西アジア考古学』 、第 24 巻、2023.3
- 山花京子他『古代エジプト人の祈りを、神像の科学的調査から読み解く！』報告書、2023.6.17
- 山花京子『受け継がれる祈りの心　東海大学所蔵古代エジプトのヒヒ神像とクラウドファンディング』、企画展覧会報告書、2023.6.
- 山花京子「古代ファイアンスの立体造形復元と今後の展望」、「東海大学古代エジプト及び中近東コレクション」、作品解説、図録執筆別冊『武蔵野樹林』、「体感型古代エジプト展 ツタンカーメンの青春 全展示紹介」、2023.7.30　角川文化振興財団
- 山花京子「古代エジプトの女王」、藤井純夫他著 『古代西アジアとギリシア：～前 1 世紀』、 岩波講座世界歴史、2023.11、324 頁
- 山花京子『なんでファラオは男なの？　古代エジプト女王の源流を探す旅』、2023.12.14、新泉社
- 北本朝展、山花京子、松前ひろみ、鴨下真由、小能治子、生田目心愛 「AI とオープンデータが人文学を変える　デジタル･ヒューマニティーズ　ー画像公開方式 IIIF や AI くずし字認識の発展から見えてくる人文学の新たな研究方法ー 」『文明』 第 31 号、2024.3、59 ～ 80 頁

【報告・講演】
- 山花京子　講演会「古代エジプトのトト神信仰ークラウドファンディングによる文化財の調査と修復」、学校法人東海大学望星学塾主催の望星ゼミナール・エジプト文明シリーズ　2023.9.29 および 2023.10.13 の 2 回
- 山花京子「東海大学の古代エジプト研究ー文理融合研究」、東海大学宇宙と地下からのメッセージ 2023、東海大学情報技術センター主催　宇宙考古学セミナー、2023.12.16

篠原　聰
ティーチングクオリフィケーションセンター・准教授、松前記念館・事務室長代行

【執筆】
- 共著「特別企画　名作の彩り　池永康晟さんの美人画」（『視覚障害』第 430 号、社会福祉法人　視覚障害者支援総合センター、2024 年 3 月）
- 「彫刻をさわる時間　　Preservation and utilization of outdoor sculptures」（『神奈川県博物館協会会報』第 95 号、神奈川県博物館協会、2024 年 3 月）
- 共著「大学と博物館の協働による文化財資料の保存活用事例」（『横浜市歴史博物館紀要』横浜市歴史博物館､2024 年 3 月）
- 「横顔の美人画　鏑木清方の作品を中心に」（『美學美術史論集』成城大学、2024 年 3 月）

●「北村西望ゆかりの地で　自治体連携による彫刻メンテナンスとその事業評価をめぐり」（『彫刻研究誌　アートライブラリー』NO.24（日本彫刻会、2024 年 3 月）
●「ユニバーサルミュージアムの実践：松前記念館の取り組み」（『新ノーマライゼーション』日本障害者リハビリテーション協会、２０２３年 7 月）
●『Innervisions　手の世界制作 -4』図録（松前記念館、2024 年 3 月）
【研究発表・報告・講演等】
● ワークショップ「彫刻メンテナンス」（秦野市、2024 年 3 月 2 日）講師
● シンポジウム「彫刻をさわる時間－「さわる」と「みる」の結節点」（千葉県立美術館、2024 年 2 月１８日）総合司会
●「“さわる”ことからはじまる多様な感性への理解」（「SDG ｓ学部未来コード」TOKYOFM 2024 年 1 月 21 日放送）講師
● シンポジウム「身体の声に耳を傾けて　学校・博物館におけるユニバーサルな学びの可能性」（東海大学 8 号館 401 教室、2023 年 12 月 16 日）コーディネーター・司会
● シンポジウム「彫刻をさわる時間　彫刻をさわる歴史を遡る」（大分県立芸術短期大学人文棟大講義室、2023 年 11 月 20 日）パネリスト
● 研究発表「彫刻をさわる時間」（屋外彫刻調査保存研究会　研究発表　東京造形大学　2023 年 11 月 11 日）
● ワークショップ「彫刻を目と手で楽しもう！」（北区文化振興財団、2023 年 10 月 8 日、9 日）講師
● シンポジウム「学芸員という仕事　その魅力と面白さ」（成城大学 9 号館 2F データサイエンススクエア、成城大学、2023 年 9 月 30 日）コーディネーター・司会
● 研究発表「日本画シンドローム　羅馬日本美術展覧会における鏑木清方の作例を中心に」（令和 5 年度第 5 回文化財情報資料部研究会、東京文化財研究所、2023 年 9 月 22 日）
● ワークショップ「彫刻をさわる時間　彫刻をさわって鑑賞するワークショップ」（大分県立美術館、2023 年 7 月 2 日）講師
【その他の活動】
● 神奈川県立平塚盲学校との連携による造形授業の実践
● 大分県立大分盲学校との連携による造形授業の実践
● ともいきアートサポート事業（神奈川県との共同事業）
  ・ 伊勢原養護学校との連携による造形授業の実践（「創作×地域展示（伊勢原養護学校伊志田分教室）」）
  ・ 神奈川県立青少年センター及びブランチ茅ヶ崎 2 での展示活動（「常設展示」）
●「彫刻を触る☆体験ツアー」（松前記念館、2023 年 8 月 5 日）
●「博物館で日本画」講師（グローカルフェスタ、松前記念館、2023 年 10 月 14 日）
●「彫刻を目と手で楽しもう！」講師（北区文化振興財団、2023 年 10 月 8 日、9 日）
●「彫刻メンテナンス」講師（秦野市文化スポーツ部文化振興課、2024 年 3 月 2 日）
● 企画展「手の世界制作 -4　Innervisions」展（松前記念館、2024 年 3 月）

吉田　晃章
文学部文明学科・准教授

【執筆】
●「古代アメリカに関する中学・高校教科書問題―中学歴史と高校歴史総合・世界史探究の検討―」（共著）（『古代アメリカ』第 26 号、古代アメリカ学会、2023 年 12 月）pp.93-108
● “Visibilidad y correlación con el paisaje cultural de los petrograbados del sitio arqueológico Presa de la Luz - un estudio mediante los sistemas de información geográfica –” (coautor), Sistemas de Información Geográfica(SIG) para arqueólogos, Repasando el espacio en contextos arqueológicos mesoamericanos, (Coordinador) Armando Trujillo Herrada, pp.137-158, El Colegio de Michoacán, A.C., 2023.　[ISBN:978-607-8836-57-4]
●『東海大学文明研究所所蔵アンデス・コレクション土器資料　X 線 CT による保存状況調査報告（3）』、2024 年 3 月 31 日、文明研究所（3 月末予定）
【報告・講演】
●「日本における笛吹きボトル研究の最前線」（共同発表 [発表者]）、倉敷考古館連携企画展「音の造形 - 古代アンデスの笛吹ボトル -」BIZEN 中南米美術館特別展「チョコレートの王国」タイアップ企画『カカオとアンデス文明のゆりかご―エクアドル考古学の最前線―』BIZEN 中南米美術館・岡山大学文明動態学研究所・新学術領域研究「出ユーラシアの統合的人類史学」共催、2023 年 10 月 30 日
●「笛吹きボトル土器の音響解析―模型を用いた実験成果の概要―」（共同発表 [発表者]）、古代アメリカ学会、第 27 回研究大会、2023 年 12 月 3 日
●「科学研究費新学術領域研究「出ユーラシアの統合的人類史学：文明創出メカニズムの解明」A02 班　心・身体・社会をつなぐアート、科学研究費新学術領域研究 A02 班会議、報告、2023 年 12 月 27 日
●「科学研究費新学術領域研究「出ユーラシアの統合的人類史学：文明創出メカニズムの解明」、科学研究費新学術領域研

究全体報告会、ポスター発表、2024 年 3 月

【その他の活動】

- 2023 年度講義科目「現代教養講義」の一部を担当し、笛吹きボトルに関する最新研究を講義した
- 「ユニバーサル・ミュージアムーさわる！“ 触 ” の大博覧会 岡山巡回展 2023」（OHK 本社 9 階 KURUN HALL、2022 年 4 月 -5 月）に出陳協力（コレクションのレプリカならびに筑波大学附属視覚特別支援学校で制作した「笛吹きボトル」作品）
- 2023 年 7 月 15 日高校生向け研究紹介オンライン動画「中南米の古代文明 - 遺跡調査と遺物の分析」公開（夢ナビ）、アンデス・コレクションと笛吹きボトル研究について紹介
- 岡山県立岡山盲学校で「笛吹きボトルワークショップ」を実施（2023 年 6 月 12 日、7 月 13 日、9 月 11 日）。初回、「アンデス文明」について講義
- 「音の造形―古代アンデスの笛吹きボトル」展を企画開催（於：倉敷考古館、会期：2023 年 9 月 13 日～ 11 月 5 日）、東海大学アンデス・コレクションを出陳
- 岡山県立倉敷まきび支援学校で「笛吹きボトルワークショップ」を実施（2024 年 2 月 19 日、3 月 4 日）。初回、「アンデス考古学」について講義

安達　未菜

文明研究所・特任助教

【論文・執筆】

- 安達未菜「祭りの聖と俗――ミストラル生誕祭」『文明』東海大学文明研究所，第 31 号，2023 年，pp. 52-62.
- 安達未菜「ミストラルとプロヴァンス文学――ロマン主義との関わりをふまえて」『文明』東海大学文明研究所, 第 31 号, 2023 年，pp. 65-72.
- Mina Adachi, “Concept of ethnicity in Provence and Catalonia in the 19th century”, Civilization, International Journal, Institute of Civilization Research, Tokai University, No. 35, 2023, pp.25-33.
- 安達未菜「フェリブリージュとフェリブリージュ・ルージュ―第三共和政期におけるプロヴァンスの地域運動―」『近現代史研究会会報』近現代史研究会，118 号，第 131 回研究会（2021 年 12 月 18 日）報告要旨，2023 年 10 月，pp. 1-5.

【国内学会での報告】

- 安達未菜「国家間のエスニシティとアイデンティティの一考察」第 41 回 比較文明学会大会，個人研究発表「混迷する世界と文明の未来～長崎で考える共生～」2023 年 11 月 12 日.

【その他】

- 40th International Human Science Research Conference（第 40 回人間科学研究国際会議､於．東海大学湘南キャンパス），Committee on campus，（2023 年 8 月 7 日～ 11 日）.
- 17th International Conference on Innovative Computing, Information and Control, 2023，Committee，（2023 年 8 月 29 日～ 31 日）.
- 17th International Conference on Innovative Computing, Information and Control, 2023，In recognition of chairing session; Environment and QOL(Quality of Life), receipt of the Certificate of Contribution, 2023.
- Institute of Civilization Research, Tokai University, Secretary on the Program & Steering Committee, 2023.
- 比較文明学会，選挙管理委員就任（2023 年～ 2026 年）

白川　美冬

文明研究所・特定助手

【執筆】

- 「朝日遺跡埋葬方位考」『研究紀要』第 3 号、 1 ー 20 頁、あいち朝日遺跡ミュージアム、2024 年 3 月
- 「地中レーダーによる遺跡探査報告」『東海大学文学部紀要』144、2024 年 3 月 (受理済･掲載頁未定)、(共著：宮原俊一・北條芳隆・白川美冬)
- 「埋葬方位研究の今とこれから」『考古学研究』第 70 号第 4 巻、2024 年 3 月 (受理済・掲載頁未定)

【報告】

- 「造山古墳後円部の地中レーダー探査結果と今後の展開」シンポジウム 文理融合分析による 造山古墳の総合的研究 (岡山大学)、2023 年 6 月 4 日、(共同発表：北條芳隆・宮原俊一・白川美冬)
- 「北尾根 3 号古墳～ 87 年前の発掘者との遭遇～」発掘された松本 2023(長野県松本市)、2024 年 3 月 9 日

【その他活動】

- 沖縄県西表島崎山・鹿川集落の実地調査
- 長野県松本市北尾根 3 号墳の発掘調査 (松本市教育委員会との共同事業)
- 岡山県造山古墳の地中レーダー探査 (岡山市教育委員会、岡山大学との連携調査)
- 兵庫県愛宕山古墳の地中レーダー探査 (大阪大学文学部との連携調査)

東海大学文明研究所所報 2023
発行人　田中彰吾
発行日　2024 年 3 月 31 日
発行所　東海大学文明研究所
神奈川県平塚市北金目 4-1-1　〒 259-1292　tel.0463-58-1211　ext.3261・4426